

薬師三尊像

金堂（文字通り「金色のお堂」）内には薬師寺の主な崇拝対象である薬師三尊像があります。これは 697 年、夫である天武天皇の死後、686 年に薬師寺の実現化を引き継いだ持統天皇によって奉獻されました。真ん中には薬師如来という治癒の仏が座り、両脇に日光菩薩と月光菩薩が立っています。

薬師寺の建設当時、木で作られた礼拝物は日本ではめったに見られませんでした。薬師三尊像は合計 20 トンの青銅で作られており、元々鍍金加工されていました（ここから、それらが置かれているお堂の名前がつけました）。一方、首飾りなどの装飾的な特徴は、色あざやかな石でいっぱいでした。火事やその他の災害により、三尊像からこれらの素晴らしい特徴が失われたが、それでもほぼ完全な状態のままであり、国宝に指定されています。

高さ 2.55 メートルの薬師仏像は、その優雅な姿勢、均衡性、美的に魅力的な特徴で広く称賛されています。茶の本の著者として世界的に知られている日本の学者である岡倉天心（1863–1913）は、薬師寺で薬師仏を見たことがない人は、「初めてそれを見る機会があるために幸運だ」とかつて言ったといいます。